

令和6年度第2回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

日 時 令和7年2月26日（水）

13時30分～15時30分

場 所 稲毛保健福祉センター3階 大会議室

出席者 委 員 19名（欠席 6名）

事務局 9名

傍聴人 0名

【1】次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議題

（1）令和6年度の取組み状況について

（2）地区部会以外の委員所属団体等の活動状況について

（3）推進協委員による発表

①「こども子育て支援に特化した中間支援の取組みについて」

菊地 まり 委員（稲毛・こどものWAねっとわーく）

②「災害対応について」

深味 肇 委員（千葉市ボランティア連絡協議会）

③「地域活動について」

工藤 和博 委員（あんしんケアセンター園生）

4 その他

5 閉会

【2】開 会

- ・委員定数25名のうち6名の欠席を確認して開会した。
- ・開会にあたり、稲毛区長より挨拶が行われた。
- ・事務局より会議の公開について説明がなされた。

【3】議事要旨

＜議題（1）令和6年度の取組み状況について＞

事務局より、各地区部会へのヒアリングに基づく令和6年度推進計画の取組み状況について、新様式の個票を使って説明が行われた。

重点取組地区で行われた具体的な取組について、概ねどの地区も年度目標以上の達成が確認できたことと、各取組みの振り返り（感想等）で「サロンへの「参加者数が増加した」「地域のつながりとなっており、利用者の感謝がやりがいにつながっている」「地域内でのあいさつ運動が浸透している」といった肯定的な意見とともに、「参加者が固定していることで新規

の人が参加しづらい様子がある」「不審者情報もあるためか、あいさつしても児童の反応がない」といった意見も出ていることがわかった。

具体的な取組について、地区部会委員から以下の発表があった。

・稲丘地区部会：

居場所づくりや介護予防に力を入れており、いきいきサロン 400 回実施、延べ 5600 人参加、シニアリーダー体操への取組地域が倍増、顔見知りになることを主眼に、体操後、30 分程車座になってお互いのことを知る取組み実施中である。また、防火防災訓練について、今年度から稲丘地区（5 つの自治会）全体で実施、地域一体で取り組んでいる。そこで、高齢者への買い物やごみ出し支援について、実施している地区に支援体制等について伺いたい。

（事務局）買い物支援について

山王地区で実施中である。具体的には、地区内高齢者施設のデイサービス車両を 10 時から 12 時まで借り、支援の必要な高齢者宅に迎えに行き、民生委員や福祉活動推進員による付き添いのもと買い物、終了後、高齢者を自宅へ送り届けている。買い物支援では、買い物への連れ出しか買い物代行か、どれくらい支援すべき人がいるのか等種々リサーチを行った上で、稲丘地区の場合、JR 稲毛駅近くという特性も踏まえて検討していく必要があると考えている。

（事務局）ゴミ出し支援について

301（作草部・天台）地区で組織的に実施中、それ以外は昔ながらのお付き合いの延長で実施しているようである。実施する場合、買い物支援と同様に、対象者、ごみの分別、地域での担い手募集等について地域で検討していただきたい。支援については、開始したが継続困難で打ち切りとなるほうが地域にはマイナスと思われるので開始前の検討を十分の行い、事務局としても支援できることは支援していきたいと考えている。

・稲毛地区部会：

いきいきサロンについて、対象年齢 70 歳以上、平均年齢 84.6 歳、平均 11 名程度の参加である。稲毛公民館の和室を利用しているが、座椅子利用によりスペースをとるので今以上の人数だと厳しいと感じている。体操は、1 時間を 15 分ずつに分け、休憩をはさんで行っている。また、体力測定を 10 年前より実施しており、継続した記録は貴重な資料となっている。ただし、公民館 2 階での開催であり、最近では 2 階への昇降が困難といった会員も出てきており、今後について検討が必要と考えている。

・草野地区部会：

団地の高齢化が進んでいるため、高齢者が参加できるいきいきサロン等の居場所づくりに尽力している。他世代交流については、地区にある障害福祉サービス事業所の支援を通年行っている。

・小中台東地区部会：

小中台東西社協まつりの際、e スポーツを取り入れ大盛況であった。また、あいさつ標語を 11 月 1 日～30 日、公民館 1 階通路に掲示、福祉教育の普及・啓発に努めることが出来た。

・小中台西地区部会：

東西社協まつりは大盛況ではあったが、会場の関係で今回は高校生のマンドリン演奏等が出来ず残念であった。地域の担い手・後継者として中高生にボランティアとして活動してもらえ
る場を創れるといいと考えている、あいさつ運動は地域の小学校に協力を依頼、子供があいさ
つについて考えている様子がうかがえる、顔見知りの近所の年配者からのあいさつでより浸透
すると思えるので今後も継続したい。

<議題（２）地区部会以外の委員所属団体等の活動状況について>

事務局より、地区部会以外の委員へのヒアリングに基づく各所属団体等の活動状況につい
て、独自の表を使つての説明が行われた。

区支え合いのまち推進計画は、社協地区部会を各地域における取組推進の中核的組織と位置
付けているが、地区部会を除く推進協委員の所属団体も各地区部会と積極的に活動を行い、ま
た、地区部会のエリアに関わらず、千葉市全域で活動をされていることが改めてわかった。

事務局としては、地元主体の大きな組織である地区部会と、様々な構成員により、特化した
活動を稲毛区や他で展開している団体が、それぞれの良い点、或いは、活動するにあたり、困
っている点について情報交換、相互協力体制をとり、稲毛区の地域福祉を盛り立てていくこと
を期待しているという内容であった。

<議題（３）地区部会以外の委員所属団体等の活動状況について>

①「こども子育て支援に特化した中間支援の取組みについて」（稲毛・こどものWA ネットワーク
菊地委員）

成り立ちについて、平成２８年度稲毛区地域活性化支援事業に採択された「いなげ子育てフ
ォーラム実行委員会」から生まれた組織である。

当組織は、「緩やかなネットワーク、しなやかな支援」をモットーに、稲毛区内でこども子
育てに関する「お互いの顔が見える」中間支援を行っており、本日は活動の一つとして小学校
就学前までの子どもとその保護者を対象とする子育て支援活動紹介紙「おたからぼけっと
BABY」を持参した。保健福祉センター等に配架されており、無料で利用できる活動を紹介して
いる。活動の難しさを感じることも多いが、組織として中間支援のあり方を学びながら、子育
て等の環境を考え、更に多世代につながる活動をしていければと考えている。

②「災害対応について」（千葉市ボランティア連絡協議会 深味委員）

普段から災害に備えているとしても、災害の規模は、起こって初めてわかるものである。

災害時に自身や家族の命を守ることに加えて、災害後の生活を守るということも視野に入れ
て準備をしてほしいことを伝えたい。各自治会で、普段から安否確認の方法、避難場所への誘
導方法の確認を行ってほしい。千葉を震源とする震度７の千葉直下地震が近い将来に起こるこ
とが想定されているので、自身の住む場所の地盤についても過去の地歴の状況を調べ、出来る
だけ準備をしていただきたい。

なお、先ほどの買い物支援等について、事故が発生した場合の対策についても考えていただ

きたい。

③「地域活動について」（あんしんケアセンター園生 工藤委員）

各あんしんケアセンターに配属されている第2層生活支援コーディネーターの業務についての紹介と当センターで実施されている事業について紹介したい。

まず、第2層生活支援コーディネーターの業務は、地域資源の把握、地域ニーズと地域資源のマッチング、地域資源の創出と担い手の育成、ネットワークの構築となり、高齢市民等からの質問では、交流サロンや体操教室の場所、見守りサービス提供先等、自治会からの講師依頼等があるので、実施先を紹介したり、コーディネートをしている。

また、あんしんケアセンターでも高齢者向けに介護予防と地域交流活動を実施している。

あんしんケアセンターは、日頃から様々な質問に対応しているので、何か質問があったら、即答はできないまでも調べて回答するということはしていきたいので、活用していただきたい。

（眞智委員長）

深味委員に質問で、地区部会単独では難しい避難所に関わる対応について、どのように進めていけばよいか教えていただきたい。

（深味委員）

各区にいる防災アドバイザーに、自身のお住まいの近くの避難所に出向いて指導を行い、ネットワークづくりをしていくということを2月から既に取り組んでいる区がある。今後全区に広げていきたい。

また、各避難所は全て環境が異なり対応も異なるため、それを情報共有していくことを考えている。

また、当委員の中には民生委員の方もいるが、民生委員には是非、避難所運営に関わっていただきたい。民生委員は、災害時の安否確認に役立つ地域の情報を沢山持っている所以避難所運営委員に関わっていただきたいし、実際、長年関わってうまく機能している地区もある。災害に対応する地域でのシステムを今から作っていただきたい。

避難所運営は、行政が行うものではなく、地域の人が行うもので、地区部会がどこまで関わることが出来るのか非常に難しいと思うが、事務局に対して講演会を実施しているところである。

（眞智委員長）

既にその方向で進めている他区があるということだが、稲毛区は今後進められるのか。

（事務局）

稲毛区では、まだ防災アドバイザーの活用が進んでいない。防災対策課とは昨年度から話し合っており、分野を絞って、各避難所運営委員会の傾向とマッチした分野、例えば、仮設トイレの設置などについて説明できるアドバイザーの活用を進めてはいるが、不十分な状況である。稲毛区でも今年度、取組もうとしたが、うまくいかなかった。

また、民生委員については、ひとりで抱えることは困難、避難所運営委員会に積極的に参加

し安否確認について情報共有できるとよいと考えている。ただ、実際、うまく体制がとれているところもあるが、民生委員が日常多忙なため、負担感等にも留意していく必要はあると考えている。

(眞智委員長)

あんしんケアセンター園生・工藤委員に質問だが、先程の発表の件で、園生エリア以外の住民からの相談にも乗ってもらえるのか。

(工藤委員)

あんしんケアセンターには圏域という担当エリアがあるが、担当がどこかわからないといった場合に私に電話をもらえれば、生活支援コーディネーターは全てつながっているので、担当のセンターにつなぐことはできる。安心して電話していただきたい。

(鴨野委員)

今までの話から、どこが責任を持って行うのかあいまいでわからない。本来、どこか1か所でまとまってやるべきではないか？支援する側もどれだけ意識しているのか、民生委員、避難所運営委員会、自治会、どこか1か所が責任を持って対応すべきなのではないか？今、あんしんケアセンター園生・工藤委員が力強く話してくれたが、そこに全て話を持って行っていいのかがわからない。

(事務局)

例えば、ごみ出し支援については、収集業務課、高齢支援課、要支援者名簿については、防災対策課、高齢福祉課というように所管が異なる縦割りとなっているため、それを是正するため、区に地域づくり支援課が出来たのだが、今年2年目ということで課としても試行錯誤しているところである。しかし、関係者の負担感不満感については少しずつ解消していきたい。

(鴨野委員)

防災アドバイザーの活用はうれしく思ったが、現場では専門的知識より総合的な知識をもった方が必要と考えている。

(事務局)

防災アドバイザーは、総合的な知識を網羅しており、その上での専門的知識を持っている。

(鴨野委員)

了解した。

(眞智委員長)

防災アドバイザーは基本的な研修とは別に専門的な研修を受けている。高齢者支援にしてもひとつの命令系統でいけばよいのだろうが、役所の組織はそうはなっていない。防災について行政は、地域の防災アドバイザーと連携していただきたい。

(松川委員)

現在、個別避難計画が進められているが、どこまで調査員に話すべきかわからない。調査員が委託事業者から派遣されているが、例えば、親だけでは難しいと話すと高齢者の場合はケアマネ、別な場合は専門支援員に相談してみると話す調査員もいれば、そういう話は全くなかったということも聞いている。どこまで計画に盛り込むのか、次回教えていただきたい。

(眞智委員長)

最近、医療的ケア児が増えていることも聞いており、個別支援計画は莫大な人数が対象となっている。

意見は出尽くしたので、事務局に引き継ぐこととする。

(事務局)

来年度当協議会第1回開催は6月を予定しており、本日の個票を最終的にまとめた地区部会における推進状況と10月1日発行予定の推進協だよりの審議を予定している。

なお、本日の会議内容を地区に持ち帰り、参考にしたいことや訊きたいことがあった場合、委員同士等で連携を図ることを期待している。

【4】閉 会

事務局より以下について周知した。

- ・次回推進協開催は6月、議題は、本日説明のあった各地区部会個票の完成版に総括表を併せた今年度の推進状況と推進協だよりに係る審議を予定している。